

Cases & Voices

セクシュアルマイノリティ女性

# レズビアン Cases & Voices

～未来に向けたニーズと希望～

レズビアンライフ サポートプロジェクト

collabo

## はじめに

この冊子は、レズビアンや、セクシュアルマイノリティ女性についての「生きかた」にまつわることが書かれた冊子です。

私たちがこの冊子を作ろうと思ったのは、たくさんの方のセクシュアルマイノリティ女性の声を聴いてきて、セクシュアリティがその人の一部にとどまらず、職業選択や人生設計にも関わる「生きかた」そのものだと実感したからです。

世の中の多くの方は、レズビアンやセクシュアルマイノリティ女性がそばにいることに、気がついていない現状があります。ましてや、何を考えていて、どういう人たちなのかといったことを知り得ることも少ないでしょう。

また、同じように、レズビアンやセクシュアルマイノリティ女性にとっても、お互いの姿は見えにくい状態です。しかし、それぞれが精一杯自分なりに歩んでいながら、自分以外の人たちが何を思って、どうやって生きてきたのかを知りたいと思ってきました。

そうした中で、少しずつ新たなことに挑戦する人が出てきたり、この先どのように生きていったらいいのかを真剣に語り合う機会も増えてきています。

NPO法人レインボーコミュニティ coLLabo は、レズビアンや多様なセクシュアルマイノリティ女性のために、当事者と社会に向けた活動を行っています。この冊子は、その中で出会った人たちの声をもとに、学校や職場でのこと、住まいのこと、医療や介護について、ライフプラン、パートナーシップについてなど、セクシュアルマイノリティ女性たちの現状やニーズ、そして希望をまとめました。

ふだん他のレズビアンたちと語り合う機会がない方、そして、セクシュアルマイノリティに関心を寄せるすべての方に、これらの事例や声を届けることで、その存在や想いを知っていただき、考え、行動するヒントにいただけたらと思います。

また、誰もが自尊心をもって生きられる社会を形作る一助として、この冊子が役立てば幸いです。

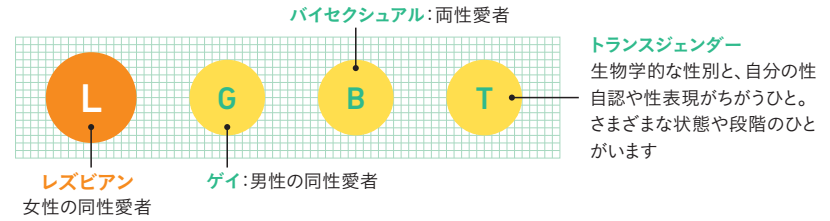
NPO法人レインボーコミュニティ coLLabo  
『レズビアンライフ サポートプロジェクト』  
チーム一同

## contents

はじめに	2	レズビアンライフ ケース&ボイス	
		学校	12
		職場	13
レズビアンやセクシュアルマイノリティ女性	3	住まい(不動産)	14
基礎知識 世界から見る、日本で考える	4	医療機関・介護	15
レズビアン特有の現状と課題	5	ライフプラン	16
		パートナーシップ・法的制度	17
レズビアンライフ サポートプロジェクトアンケート	6	Lコミュニティ/私たちのニーズ	18
		おわりに	19

## セクシュアルマイノリティの中の「レズビアン」

セクシュアルマイノリティの人たちは、主に「LGBT」と表現されることがあり、「L」がレズビアンを表しています。



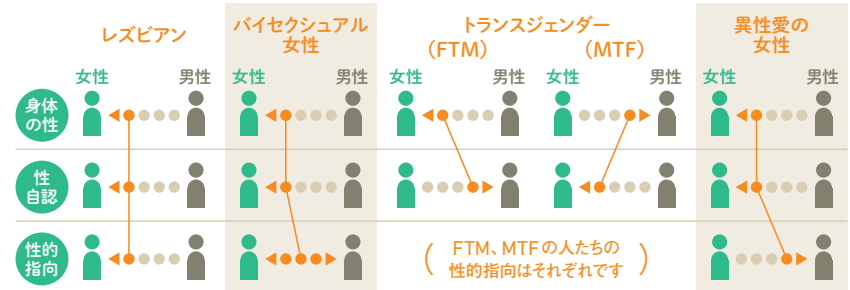
## 多様なセクシュアルマイノリティの女性たち

「女性」という要素を含むセクシュアルマイノリティ女性の在りようはさまざまです。ここでは、レズビアン、バイセクシュアル女性、トランスジェンダー (FTM、MTF) についてみていきましょう。

※FTM(女性から男性へ=Female To Male)、MTF(男性から女性へ=Male To Female)

多様な性を考える際によくあげられる項目です

- ◎**身体性**: 生物学的な性
- ◎**性自認**: 自分の性別に対する認識
- ◎**性的指向**: 恋愛や性愛の関心が向かう方向のこと(同性愛、両性愛、異性愛)



上の図ではシンプルに表しましたが、私たちの性のとらえ方はグラデーションのように広がります。

LGBT以外にも、性分化疾患<sup>1</sup>などもセクシュアルマイノリティに含まれます。さらに近年、セク

シュアリティにはさまざまな呼び方が増え、自分を表す言葉の使い方、考え方も多様です。

1) 性分化疾患は、遺伝的性・性腺・外生殖器・脳の性が分化するプロセスのどこかが非典型的な状態のこと

## 同性愛? それともトランスジェンダー?

「胸がジャマで嫌、スカートをはきたくない」といった女性の身体に少し違和感があったり、社会にある「女らしさ」の強要がイヤと感じたりする女性が、同性を好きになることがあります。中には、「女性を好きになる私は、男になりたいのかも」と考え、十分な時間をかけずに「男性になろう」と病院に行くこともあります(性同一性障害は、性別の変更などの治療を望むトランスジェ

ンダーの人が受ける診断名です)。周囲の人が先走って「性同一性障害じゃないか?」と助言することもあるでしょう。迷いや揺れのある人にとって、「恋愛は異性とするものだ」という偏った社会の見方によって、混乱してしまうのは無理ありません。まずは、同じような経験をしている人と話をしてみ、じっくりと自分のセクシュアリティを見つめていってはいかがでしょうか。

## COLUMN



## セクシュアルマイノリティは人口の5~10%くらい

日本では政府による正式な調査は行われていませんが、海外を中心に複数の調査<sup>2</sup>からその数は5~10%と推計されてきました。

国内の近年の調査では、成人男女69,789名のうち、LGBTIの割合は5.2%という結果もあります(電通総研「LGBT調査」,2012年)。この割合は、たとえば生徒1クラス40人のうち1~2人はいる計算です。そしてLGBT市場は約6兆円前後と、消費者としてビジネス界からも注目を集めています。

## セクシュアルマイノリティのメンタルヘルス

これほど多くのセクシュアルマイノリティがいると推計されていますが、身近にセクシュアルマイノリティがいる、という人は多くありません。それは、セクシュアルマイノリティであることをカミングアウトしていない人が多くいるためでしょう。

ロールモデルになる人が身近におらず、膨大な情報の中からセクシュアリティについて正確で肯定的なメッセージを受け取ることが難しいと、自己受容に時間がかかってしまいます。また、将来への不安を感じる人も少なくありません。セクシュアルマイノリティはストレスを受けやすく、メンタルヘル스에課題を抱えやすい、という研究結果も出ています<sup>3</sup>。なかなか、自尊心をもってカミングアウトできる土壌が乏しいのです。



## 世界では同性パートナーを承認する国が続く

2000年以降、セクシュアルマイノリティに関わる世界の動きは活発で、人権をめぐる動き<sup>4</sup>や、同性婚や同性パートナーの権利を保障する制度が各国で始まっています。ILGA(2013年5月)の報告によると、性的指向を理由とした差別を禁止する法律のある国が、66カ国および84地域あります。また、同性カップルを承認する法律(同性婚)のある国が、30カ国および44地域あります。一方で、同性愛者であるだけで、禁固刑となる国が73カ国および5地域、死刑になる国も5カ国等に存在します。

## 日本の法律は?

性同一性障害については、治療の道すじが示され、法律(「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」)が制定され、しかるべき手続きで性別変更も認められるようになりました。一方で、同性愛者については、それだけで死刑や禁固刑になることはありませんが、人権擁護や同性パートナーの権利保障を目的とした法律もありません。それは1つには、多くの人がまだセクシュアルマイノリティの存在や、そこに不自由があることも知らず、また無関心であるためと考えられています。しかし、民間団体の粘り強い働きかけなどによって、一部の地方自治体でセクシュアルマイノリティへの差別禁止や配慮を明文化した条例ができています。

## 日本でも変化は起きている

世界と比べてしまうと小さな歩みかもしれませんが、日本にも着実に変化はあります。政治面では、政策に盛り込む政党<sup>5</sup>も少しずつ出てきました。また、TVや雑誌等のメディアによってセクシュアルマイノリティのリアルな姿が取り上げられる機会が増えてきました。

公的な制度ではありませんが、同性どうして結婚式を挙げたいというニーズに応えるサービスが出てきていることなどは、セクシュアルマイノリティの存在が見え、希望が伝わることによって社会が変わっていく、という好例と思われる。

2) 古くはキンゼイレポート(アメリカ,1948年)、「日本の青少年の性行為とエイズ認識」(1996年)などがある  
 3) 異性愛ではない男性は、異性愛男性に比べて6倍もの自殺リスクがあるという調査結果がある(日高庸晴ら,2001年)  
 4) 国連人権理事会で「LGBTの人権に関する声明」の採択(2006年)、「ジョグジャカルタ原則」の承認(2007年)などがある  
 5) 2012年の総選挙では、「フランスのPACSをモデルとした新制度の創設を目指す」、「欧米各国を参考に、現在の結婚に代わるパートナー制度の導入を目指す」、「性的マイノリティ(少数者)の権利擁護を目指す」という公約が挙げられた

## 「女性」で「同性愛者」であるということ

レズビアンを、「女性」の「同性愛者」という2つの要素から考えると、レズビアン特有の状況が見えてきます。

「女性」という前提では、私たちは男女の経済格差や女性に対する差別がまだにある社会において、一般的な男性と比べ、非正規雇用などの就労形態や年収の低さが課題とされています。

男性と結婚して「経済的に扶養される」「男女で協力する」というライフスタイルから遠いレズビアンは、そうした就労状況のもと、将来への不安を抱きながら、ずっと働いて生計を立てていかなくてはならず、できるだけ安定・安心して継続できる仕事に就くことを模索する人も多くいます。

また、人生のパートナーを得て、女性カップルで支え合って生きていても、「同性愛者」に対する無理解から、そのことを秘密にせざるを得ない場合も多いでしょう。そして、同性のパートナーシップに対しては婚姻制度も社会保障もありませんので、社会的にはシングル女性とみなされて生きているのです。

そこには、おなじ同性愛者とは言え、ゲイ男性(カップル)とはまた違う状況があります。

ですから、レズビアンやセクシュアルマイノリティ女性の状況に合った、社会のしくみやサービスが求められてくるのです。

## レズビアンは300万人いるのに、見えにくい

日本の女性人口約6573万人(平成22年国勢調査)の5%がレズビアンやセクシュアルマイノリティ女性だとすると、328万人。

こんなにも存在しているはずなのに、身近にいないのはなぜでしょう。先に述べたようなカミングアウトしにくいしくみがあることに加えて、レズビアン特有の状況も関わっていると思われます。

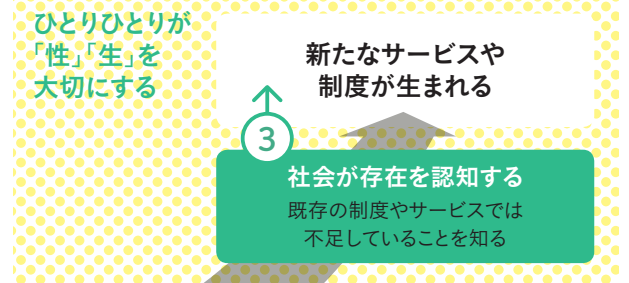
たとえば、「同性愛」が性・セックスだけという誤解をされ、「レズビアン」という言葉にはポルノイメージが強いため、あまり「レズビアン」という

言葉が好きではないのかもしれませんが、また、セクシュアリティをカテゴライズされることに抵抗があったり、セクシュアルマイノリティを表す言葉が特に女性では多様化していて、自分が誰なのか混乱してしまったりするのかもしれませんが。

レズビアンやセクシュアルマイノリティ女性はまだ見えにくい存在です。しかし「一を聞いて十を知る」、見えている人がいる以上、まだ見えない影への想像力を持ちたいものです。

## 存在が見えることは大切な1歩

世の中のしくみは多数派(マジョリティ)を想定して作られています。少数者(マイノリティ)が社会的存在として認知され、尊重され、さまざまなサービスや制度が生まれるためには、次のようなステップが必要となります。



# レズビアンライフ サポートプロジェクト アンケート

Lesbian Life Support Project Questionnaire

coLLaboで実施したアンケート調査(2012年7月~2013年4月)をもとに、レズビアンたちの実際をクローズアップしてみましょう。このアンケート実施の目的と方法は、次の通りです。

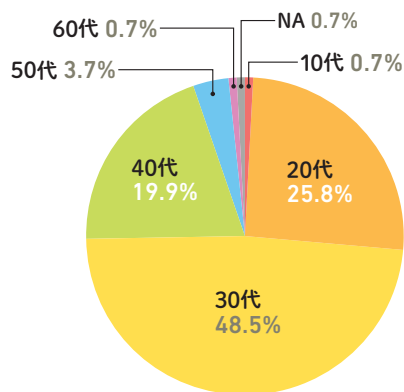
**目的**…レズビアンとセクシュアルマイノリティ女性の生活や人生に必要なものをつくり出すために、リアルな声や思いを集める。  
**方法**…coLLabo主催の当事者向けのプログラム(RealVoice、coLLaboLINK、LL スタディ)の参加者に配布し、無記名で記入してもらいました(複数回の参加者も、1回のみ記入)。回答者は合計136名。

## 回答者の属性

### ●年代

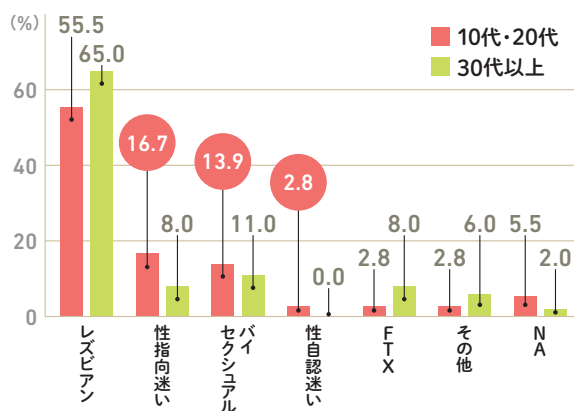
平均30代半ばでした。30代を中心に、ついで20代、40代の女性たちの声が集まりました(19歳~60歳)。

※グラフ中のNAは無回答の略です(以下同)



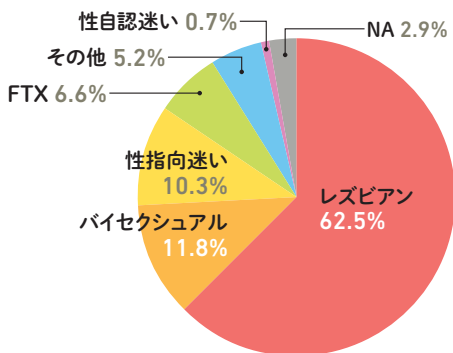
### ●10代、20代に注目!

セクシュアリティを「10代・20代」と「30代以上」とで比較してみました。10代・20代が高くなっている3つの項目は、「性指向の迷い」、「バイセクシュアル」、「性自認の迷い」で、この年代は、成長過程の中で、セクシュアリティの迷いや揺れを、より大きく経験していることが伺えます。



### ●セクシュアリティ

自分のセクシュアリティを「レズビアン」と答えた方が62.5%(85名)と最多で、「レズビアンかバイセクシュアル/ヘテロかで迷っている」(性指向迷い)が10.3%(14名)、「FTX」と名乗る方が6.6%(9名)等、セクシュアリティの多様さが表れています。

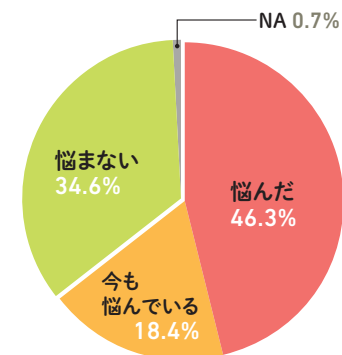


## セクシュアリティを受け入れるのって大変!!

1

### 自分がヘテロ(異性愛)ではないと気づいた時、悩みましたか?

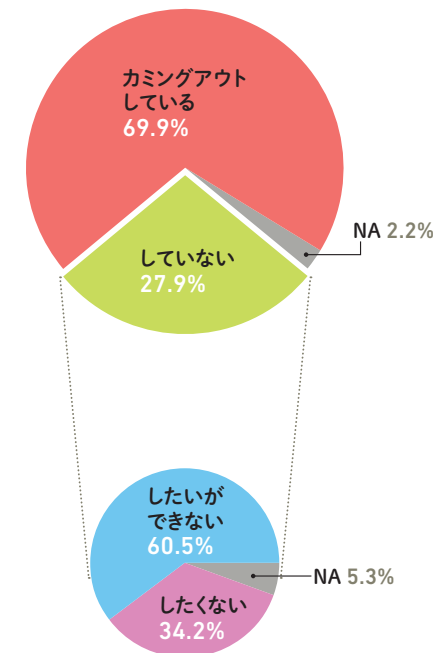
「悩んだ」「今も悩んでいる」と答えた方が合わせて64.7%(88名)と大半を占めています。特に、「今も悩んでいる」方が18.4%(25名)いることから、レズビアンやセクシュアルマイノリティ女性向けのコミュニティに参加している方たちでさえも、今なお「悩み」の中にいる人が多いことがわかります。



自分が、世間で当たり前とされている異性愛者ではないことに気づいた後、本人自身が悩んでしまうのは、否定的なイメージがあるからにほかなりません。思春期に気づくことが多いセクシュアルマイノリティの子たちが、必要以上に悩んで自己を否定してしまう社会の現状があるようです。

### カミングアウトをしていますか?

「カミングアウトをしている」方は、69.9%(95名)、「カミングアウトをしていない」方は27.9%(38名)でした。さらに、「カミングアウトをしていない」方の内訳をみると、60.5%(23名)の方は、「したいができない」と回答しています。「したくない」と述べる方も、34.2%(13名)います。



調査によって調査協力者の層が違いますので、カミングアウトしている人の割合には幅が出てきます。都内で中に行ったcoLLaboのプログラムに参加した方たちは、7割くらいがカミングアウトしているとわかりました。さらに、この調査で分かったのは、「したいのにカミングアウトできない」方がいることと、「したくない」という強い抵抗感をもつ方もいることです。レズビアンやセクシュアルマイノリティ女性が、社会との関わりで慎重になっている、ということが伺えます。

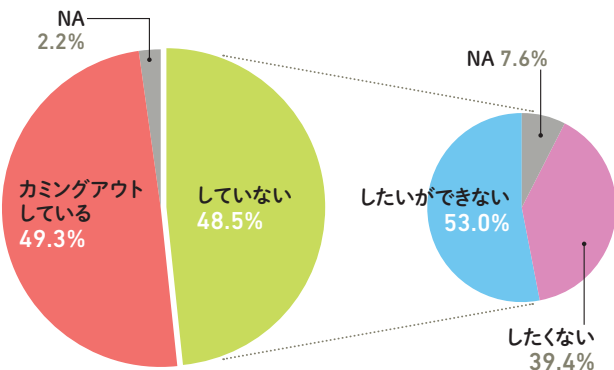
参考:「親以外へのカミングアウトをしている」は、44.4%([「ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2」,日高,2007)  
 「友人にカミングアウトしている女性同性愛」は92.7%([「LGBTと職場環境に関するアンケート調査」,虹色ダイバーシティ 2013)

## 大切なひとたちとの関係

2

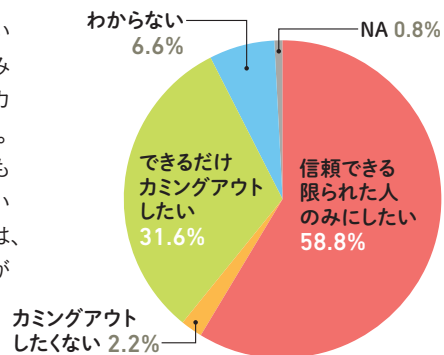
### 親へカミングアウトしていますか？

親へのカミングアウトを「している」方は49.3% (67名)、「していない」方が48.5% (66名)とほぼ同数でした。対象を絞らずに尋ねた「カミングアウト」よりも、「親へのカミングアウト」はハードルが高いことが伺えます。なお、親へのカミングアウトを「していない」方内、39.4% (26名)は「したくない」と答えましたが、過半数の53.0% (35名)は、「したいができない」でいることが分かりました。



### カミングアウトに対する考え方は？

今後のカミングアウトの機会について、最も近い考えを尋ねたところ、「信頼できる限られた人だけにしたい」が58.8% (80名)、ついで「できるだけカミングアウトしたい」で31.6% (43名)の順でした。なお、「したくない」と答えた2.2% (3名)はいずれも40代で、同性愛やセクシュアルマイノリティについて肯定的な情報が普及する前に成長した世代は、カミングアウトに対して比較的慎重であることが推察されます。



Message

**【カミングアウトをされた方へ】** 彼女たちがカミングアウトをしたのは、あなたとの関係性を大切に思うからです。当人のこの揺れる思いを知っていただき、その言葉に耳を傾けてください。また、「世間体」や「ウワサ」に振り回されず、正しい知識と情報をもって、対話を重ねていただければと思います。

**【カミングアウトの実践をしている方へ】** その一步一步が、レズビアンそしてセクシュアルマイノリティ女性の姿の「見える化」につながります。存在が伝わり、声が届くことで、周囲の理解や社会の変化につながると信じていきましょう。

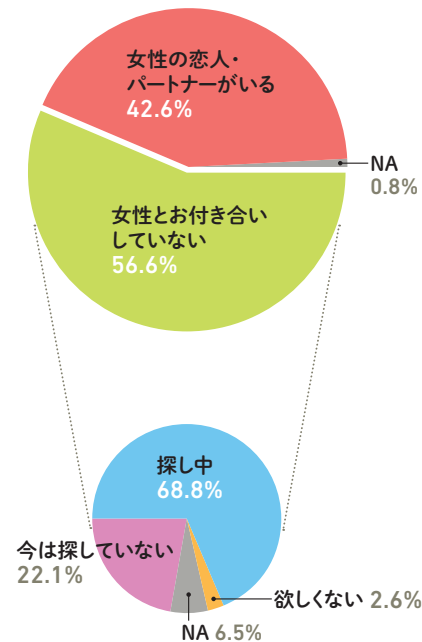
「カミングアウトに対する考え方」は、人それぞれです。できれば隠しておきたい自己の一部ととらえる人もいますが、最近では関係性に依拠して伝えたい、できるだけ隠さずにいたいと考える人も増えているように思います。その根幹にあるのは、セクシュアリティも自分の「大切な」部分で、存在・生き方のコアとして表し、ありのままに他者と接したい、という願いです。その反面、信頼できる限られた人へのみ開示しようという姿勢には、相手の反応への恐れも伺えます。

## 女性どうしのカップル、パートナーシップ

3

### 現在お付き合いしていますか？

「女性の恋人・パートナーがいる」と答えた方は、42.6% (58名)、「女性とお付き合いしていない」方は56.6% (77名)でした。また、「お付き合いしていない」方内、22.1% (17名)は相手を「今は探していない」と答え、68.8% (53名)は、「探し中」と回答しました。

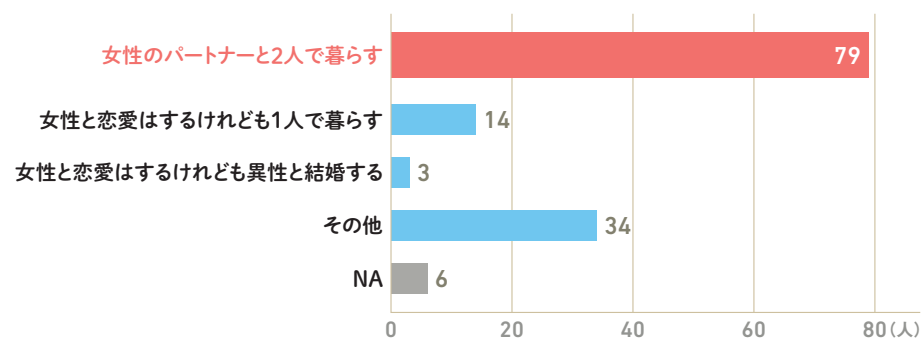


交際に関するステータス(現在の状態)はほぼ二分しました。出会いを求めるのとは別の動機でレズビアンコミュニティに参加する方たちが増えてきたように思います。セクシュアルマイノリティである自分をありのままに、理解し合える友だちや場をまず求めているのかもしれませんが、女性の恋人やパートナーと出会った後、どうやって生きていこうか、ということを考え始めた方たちが増えてきているのではないのでしょうか。

### どんな生き方をしたいですか？

レズビアンやセクシュアルマイノリティ女性のライフスタイルについて、3つの選択肢で尋ねたところ、「女性のパートナーと2人で暮らす」というカップル志向の方が79名と過半数(58.1%)でした。他方、「女性と恋愛はするけれども1人で暮らす」が14名(10.3%)、「女性と恋愛はするけれども異性と結婚

する」も3名(2.2%)見られました。「その他」の34名(25.0%)の詳細としては、まだ分からない方が11名、どういう形かにこだわらない方が7名、共同生活の展望をもつ方(シェアハウス、長屋など)が5名、男女を問わずパートナーと暮らすのが2名などとなりました(複数回答)。





## レズビアンという人生を歩むには

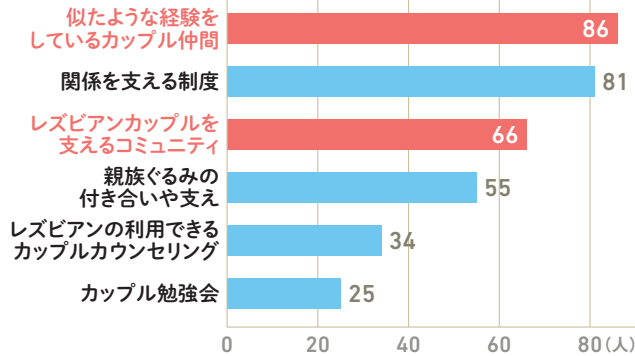
4

### レズビアンどうしの付き合いが長く続くために役立つと思うものは？

6つの選択肢について尋ねたところ、「似たような経験をしているカップル仲間」を選んだ方が86名(63.2%)、「レズビアンカップルを支えるコミュニティ」が66名(48.5%)となり、ピアサポート(同じ立場

どうしの支え)やコミュニティの存在意義が伺えるものでした。他方、「関係を支える制度」が81名(59.6%)、「親族ぐるみの付き合いや支え」が55名(40.4%)という回答が得られました(複数回答)。

女性どうしが2人で生きていく上では、異性愛者が利用できる結婚制度のようなものはありません。それでもふたりが人生のパートナーとして歩み続けるためには、どうしたらよいのでしょうか。たとえば、それぞれができることを模索したり、制度を得られないか勉強をしたりする、そうした意識が表れてきています。



## ふたりの関係性を守りたい

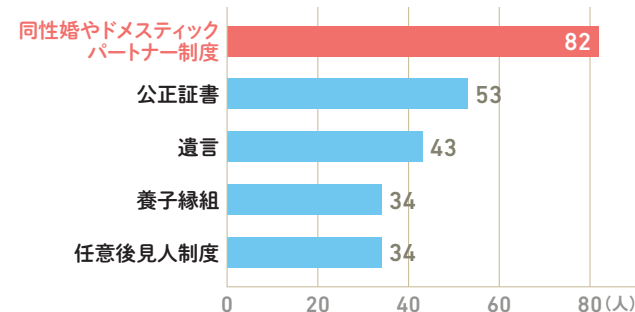
5

### 「2人の関係の法的保障」として、次のどのようなことに関心がありますか？

パートナーシップをもつ2人の関係を支え、助けとなる既存の制度や、未来の制度について、5つの選択肢で尋ねてみました。「同性婚やドメスティックパートナー制度」を選んだ方が82名(60.3%)と最多で、「公正証書」「遺言」「養子縁組」「任意後見人制度」の順となりました(複数回答)。

※公正証書は、パートナー間で色々な約束を決めて契約を交わし、周囲にふたりの関係性を尊重してもらえるように、公証役場で作成してもらう書類のことです。遺言は、財産の処分についての意思を示す書類のことで、パートナー間で財産を継承したい場合に作成する動きがあります(自筆証書遺言、公正証書遺言など)。養子縁組は、パートナー間の法的保障がない中で、親子になることで家族としての保障や扱いを受ける1つの手段です。任意後見人制度は、予め契約を結んでおくことによって、判断能力が衰えたときにパートナーに代わって財産の管理や施設入所の契約などをすることができる制度です。参考:「同性パートナー生活読本」,永易至文,2009)、法テラス(<http://www.houterasu.or.jp/index.html>)

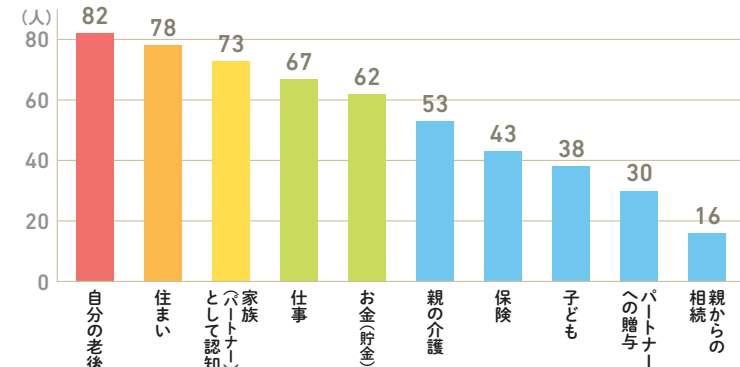
まだ日本にはない「同性婚やドメスティックパートナー制度」を望む声は多くあります。一方、既存の制度を活用したという事例はまだ多くありません。まずはあるものから試みて、経験を共有して課題を明らかにしつつ、制度を目指す議論も活発にする、両輪から未来づくりをしていくことも大切ではないでしょうか。



## レズビアンとして生きていく上で重要なこと

6

### レズビアンライフで関心のあることは何ですか？



1 最も関心が高かったのは、「自分の老後」について、82名(60.3%)が選択しました。高齢期は歳を重ねれば誰にでも訪れるものですが、レズビアンたちは、制度上の家族(配偶者や子ども)をもたないライフスタイルを生きる人がほとんどです。そのため、どのように歳をとるのかに付随して、孤立や他者との関係、医療との関わり、介護福祉サービスの問題などは、気になる領域と言えます。(→医療機関・介護へ p15)

2 2番目に多かったのは「住まい」で78名(57.4%)が選択しました。「住まい」は、単に賃貸に住むか分譲に住むかというテーマだけではありません。パートナーと2人で暮らすことに際しての気配りもあれば、パートナーシップにこだわらない住まい方を考えたいということまで、幅広いテーマが広がります。(→住まい(不動産)へ p14)

3 3番目は、「家族(パートナー)として認められること」が選ばれました(73名、53.7%)。これが解決すると、パートナーシップに関する悩みごとも変わってくるくらい大きなテーマです。(→パートナーシップ・法的制度へ p17)

4 「仕事」(67名、49.3%)、「お金(貯金)」(62名、45.6%)。異性との結婚を選択せずに、女性が生きていこうとするとき、仕事やお金の問題は基盤となるテーマですね。また、どのような環境でも、職場でのカミングアウトなどの悩みもつきまといまいます。(→職場へ p13)

5 その他のテーマでは、「親の介護」、「保険」、「子ども」、「パートナーへの贈与」、「親からの相続」の順でした。(→ライフプランへ p16)

### アンケート調査(第1弾)を振り返って

調査では、136名のレズビアンとセクシュアルマイノリティ女性にご協力をいただきました。今回は、セクシュアリティに向き合い、自己受容するプロセスと、レズビアンやセクシュアルマイノリティ女性にとって共通と考えられるライフイベント、私たちの助けとなるであろうリソースをちりばめて、意識や思いを聞かせていただきました。

みなさんに届けていただいた声をもとに、これからのcoLLaboの活動を展望し、プログラムの内容に反映し、新たな事業を模索し、レズビアンとセクシュアルマイノリティ女性のために、しっかりと活かしていきたいと思ひます。

振り返れば、初めての調査ということもあり、伺いたいことが多く設問を絞りきれませんでした。今後は、テーマを焦点化し、ニーズや実際についてもっと掘り下げて把握していきたいと思ひます。また、調査協力を、coLLaboのプログラム中心に募ったため、得られた結果には偏りがある可能性も考慮しています。なかなか日本のレズビアンやセクシュアルマイノリティ女性について代表性のあるデータを得るのは困難かと思ひますが、アンケート調査の手法もブラッシュアップし、より多くの方々の声を伺うようにしてまいりたいと思ひます。ご協力くださったみなさま、ありがとうございました。

## 学校 | School

セクシュアルマイノリティの子どもたちは、だいたい思春期頃に「自分はちょっと周りと違うな」と感じてきます。学校は勉強だけの場所ではなく、友だちをつくり大人へのステップを学んだりしますが、マイノリティだというだけで結構窮屈な思いをすることも。安心して通える学校ってどういうものでしょう？

### CASE

**小** 5では女の子に魅かれる自分に気づいてた。初めは仲良くなりたいというくらい。中学でキスしたい衝動があると気づいてからは、やばい！相手は女子だし、と自分でも思った。それからは、気持ちをはた隠しにしていたつもりだけど、周りの女子に気づかれてシカトされることもあった。ますます誰にも言えないと思って、ぜんぜん平気なふりをして、勉強だけをしていた。親にも先生にも相談なんてできなかった。高校では恋愛には無関心なふりか、男子に恋する努力をしてみたけど、効果はなくて、次から次へと女子を好きになる自分は本音で友だち付き合いなんてできないと思っていた。(30代L)

**兄** たちと一緒に遊ぶのが好きな活発な子だった。外でサッカーをして遊ぶのが好きで、物心つく頃には男の子になりたいと思っていた。思春期にさしかかると、スポーツ好きの私は部活の女子にも人気だったし、年上のお姉さんを好きになって仲良くなったが、しょせん女子は男子のもとになってしまうと思っていた。だったら思い切り女子らしくしてみようと、高校では髪を伸ばして女装し、バイトに明け暮れていた。どれが本当の自分か試していたのかもしれない。身体を手術して性別を変えろという方法も完璧じゃないような気がして、女性の身体に心当てはめるような時間が続いた。(20代L)

### (学校で)

自分のセクシュアリティに気づいたときに、相談できる人がいてくれたら！

友人にセクシュアリティを知られ、気まぐらくなってしまった／恋愛は異性とだけするもの、という思い込みや発言はやめて

今後どういう進路を選べば生きやすくなるのかわからない。相談できる大人がいない／セクシュアルマイノリティがいる前提で、授業中なども意識して話してほしい

学校教育の中できちんとセクシュアルマイノリティのことを取り上げられるといいな

いろんなマイノリティがいることや、ともに支え合って生きていけるというメッセージを伝えて／教員にも当事者がいるはず。教員もカミングアウトできるような環境なら、生徒だって多様性を学べるし、安心できると思う

### (先生たちに)



### 先生たちへのメッセージ

セクシュアルマイノリティの子どもたちは、自分でもどう話したらいいかわからずにいます。また、理解できる大人がいると知るまでは、直接話してくることは多くないかもしれません。ですから、まずセクシュアルマイノリティの知識を得て、次のようなことから取り組んでみてはいかがでしょうか？

- ① 校内に多様性に理解を示すような情報を掲示する(ポスター、図書館の本)
- ② セクシュアルマイノリティを理由としたからかい、冷やかかしには断固とした姿勢で指導する
- ③ セクシュアリティに揺れる生徒がコンタクトできる相談先情報を知っておく

## 職場 | Work environment

職場って、仕事をするとところ。一日の大半を職場で過ごす社会人にとって、日常会話は結構多いですよね？恋人いる・いない、結婚する・しない…、といったヘテロセクシュアル(異性愛者)にとっては「当たり前の会話」でも、セクシュアルマイノリティにとっては、ちょっと違うんです。

### CASE

**職** 場でカミングアウトをしている人がいたら、すごく勇気のいることを「あえて」しているんだなあって思ってください。あなたが当たり前に行っている「恋バナや家庭のお話」を私たちだってありのままにしたいんです。カミングアウトをするということは、自己実現の第一歩。社会人は、仕事を通して自己実現を模索する人も多いでしょう。カミングアウトをして、なおかつ仕事に打ち込める環境だったら、素敵な職場だって自慢できると思う。セクシュアルマイノリティに手厚い職場だなんて、それだけで画期的企業であり、先駆的！(30代L)



### (ここがキュウクツ!)

セクシュアルマイノリティは、一見シングルに思われがち。でもパートナーがいる場合もあります／職場でプライベートな話をするのだったら、セクシュアルマイノリティのプライベートな話も偏見なく聞いてほしいな

セクシュアリティをオープンにして働きたいけど、職場でアウティングされて解雇されたらどうしよう

### (人事担当・経営者の方に)

パートナーや子どもがいる場合、セクシュアルマイノリティにも福利厚生(住宅手当、慶弔規定、介護・育児休暇など)が適応されたら嬉しい

男女間の労働格差も少なくして、多様性を認めてくれる職場になるといい／LGBTを雇うことは企業にとってプラスだという考えが普及するといいな



### 職場の方へのメッセージ

人口の5%がセクシュアルマイノリティなら、あなたの職場にも、セクシュアルマイノリティがきっといます。それを意識してもらえるだけで、当事者にとっては、ぐっと息をしやすくなります。「彼氏は？ 彼女は？」、「結婚は？ 子どもは？」と尋ねる前に、「恋人は？ 付き合っている人はいるの？ パートナーは？」、少し言葉を変えるだけで全然違います。

近年、企業向けに、セクシュアルマイノリティの理解を深める勉強会などを実施

する例も出てきています。取り組む企業は、セクシュアルマイノリティの労働者の生産性があがり、企業のイメージアップにもつながることを重視しているようです。

また、男女雇用機会均等法施行規則が改正され(2014年7月より施行)、職場におけるセクシュアルハラスメントに、同性に対するものも含まれるものであることが明示されました。当事者が働きやすい環境を1つずつつくっていきましょう。



## 住まい(不動産) | Living [Real estate]

「衣食住」というくらい、住まいは生活や人生に大切な要素。家を借りるか、買うかという普遍的なテーマに加えて、「パートナーと2人で暮らす」となると、レズビアン特有の気付きもあります。セクシュアルマイノリティの私たちは、実は不安も夢もいっぱいあるのです。

### CASE

**交** 際2年を経て、彼女と一緒に暮らすことにした。最初の部屋のときは、ルームシェアOKの物件にしたが、借りた後で関係性を聞かれたとき、とっさに従姉妹ということにしてしまった。近所とは挨拶程度しかしてないので、特に気にすることはなかった。今の部屋は、私が転職になったので、ふたりの職場の中間地点に引っ越してきた。2人がそれぞれに保証人を立てて借りている。理想通りの住みやすい部屋で気に入っているけど、裏に住む大家さんと2人そろって会ったときは、友だちどうしのルームシェアに見えるかな、と正直気になる。今は楽しいけど、将来はどうしていったらいいのかな。

(30代と20代のLカップル)



### (隠さずに住みたい)

レズビアンやセクシュアルマイノリティに理解のある不動産屋さんや大家さんなら、安心して相談できるし、適した物件を案内してもらえる

2人で賃貸契約、でも「友だち」とのルームシェアではないですよー

### (パートナーと安心して暮らしたい!)

パートナーと住宅の共同購入を考えているが、ローンが一緒に組めない／パートナーと同居していたが、相手を亡くして、住むところを失ってしまった

### (住まい方の工夫)

レズビアンやセクシュアルマイノリティの友だちの近所に暮らしたい／1人暮らしのレズビアンが集まって暮らせるハウスを作る(シェアハウス、コーポラティブハウス、コレクティブハウスなど)



### 不動産会社へのメッセージ

新たな家や部屋を探すというのは、人生の1つの転換期。できることならセクシュアリティを隠さずに、最適な住まいに巡り合えたら、という願いは誰もが持っています。借りる場合も、買う場合も共通しているのは、生活スタイルや人生設計に応じて相談できる不動産屋さんとの出会いたいというニーズです。ただ、それと同時に、セクシュアルマイノリティであることがどう受けとめられるのか、という不安も感じています。次のようなことをヒントに、対応し

ていただけたらと思います。

- ① 同性2人の客が来たときに、セクシュアルマイノリティかもしれない、カップルかもしれない、とイメージしてみてください
- ② セクシュアルマイノリティのライフスタイルやパートナーシップのあり方について意識し、理解を深めてください
- ③ 2人の関係性がパートナーどうしであると分かったなら、本人の望みに応じて、話題にしてください

## 医療機関・介護 | Hospital/Care

病院に行くときって、苦しいときや、つらいとき。

そんな場面で、セクシュアルマイノリティが本当にそばにいて欲しくて、安心できるのは誰なのでしょう？ 通常だと「家族(血族)に連絡!」ってなりがちですが、そうでない場合もあります。

### CASE

**み** んなにも考えてもらえたら嬉しい。同居しているパートナーが、突然のケガで救急病院へ運ばれたと聞いて、意識不明の彼女のもとへ私は駆けつけた。5年も一緒にいるのに、世間的には他人。私は必死だった。毎日を共にし、彼女のことを一番よく知るのには私なのに、疎遠な身内が病院の窓口になってしまう現実。あなたは誰? と排除されそうな視線に負けまいと、私は「家族です」と言い続けた。彼女の身の周りの世話を奪いとるようにして、見えない「家族」の枠に割り込んでいった。時間と共に「いつもいる人」と見なされたのは、もう退院直前だった。(30代L)

**お** 互い40代の私たちは、いざという時のためにいくつか準備をしている。まず、「緊急時連絡先カード」を持ち、携帯のアドレス帳にはパートナーの名前に「緊急連絡先」と付けてトップに出るようにした。次に、病院で意識がなくなって意思表示できない場合に備え、パートナーを意思決定の場に参加させて欲しいと希望する書類を作った。これで何かの時に私に連絡が届くことや、「他人」扱いされる不安が減るだろうか。遺言書も作成したが、これは亡くなってからのこと。まだまだ生きている間にも心配はある。親やきょうだいにも周知して、できることを進めていくつもり。(40代L)

自分が1人で倒れて搬送されるとき、緊急連絡先の希望を聞いてほしい／病気やケガのときは大変なんだし、病院に気兼ねせずありのままの自分で治療を受けたい／家族(血族)じゃなくても、パートナーが説明と一緒に受けたり、治療の方針を考えたりしたい

### (老後)

レズビアン・セクシュアルマイノリティ向けのサービス付き高齢者向け住宅など専門の施設ができれば／介護が必要になったからと言って、異性愛のような扱いはやめてほしい

### (緊急連絡先)



### 医療関係・介護関係者へのメッセージ

病気などの辛いときに、セクシュアルマイノリティの人たちがありのままの自分でいられたら、ストレスも減って、治療に専念できると思います。また、正確な診断や治療、援助をしていただく上で、パートナーが同性であることなど、セクシュアリティについて伝えやすい環境をつくっていただけたらと思います。

- ① 目の前の患者・利用者がヘテロセクシュアル(異性愛)ではない可能性を念頭において接してください
- ② 入院や生活介護で、生活全般に関わる場合は、より

深いセクシュアリティの理解をもって対応してください

③ 緊急連絡先をはじめ、サービスの利用にあたってのキーパーソンを誰とするか、本人の希望を尊重し、偏見をもたずに対応してください

### みなさんへのメッセージ

高度な専門性を提供してくれる医療機関等では、私たち自身のセクシュアリティを必要に応じて明らかにした方が適切なサービスが得られる場合や、抵抗感を超えてサービスを利用したほうがいい場合があります。すべての専門機関でそうしたサービスが利用できるまで、1人1人の工夫が必要です。一緒に考えていきましょう。



# ライフプラン | Life planning

レズビアンたちにとって、ライフプラン・人生設計を立てることは大仕事。というのも、ヘテロセクシュアル(異性愛者)なら、結婚・子ども・マイホームといった典型的なライフプラン例がありますが、セクシュアルマイノリティの私たちの将来像は、どのように描けばいいのかわからないことが多々あるからです。

## (パートナーとの 出会い・同居)

どこで、どのように出会えるのか、いつ出会えるのか不安

彼女と同居

するとき、職場や家族に、相手をどう説明するかに悩む

## (マネープランのこと)

女性は1人でも2人でも、経済的に暮らしていくのは大変／パートナーが病気になって働けなくなったとき、1人で家計を支えられるか心配

子供を産みたい、育てたい(里親なども含め)

## (女性としての選択)

## (親・親族との関係)

周囲からの結婚プレッシャー、逃げたいと思ってしまいうけど、本当は受け入れられたい／結婚式をしたいけれど、パートナーの親や親せきにカミングアウトして受け入れてもらえるかと心配

将来、自分の老後のためにも、甥姪たちに理解しておいてもらいたい／自分やパートナーの親が倒れたら、家族として介護にどこまで関われるか不安になる



自分が死んだら彼女に遺贈したいので、方法を模索中

## (自分たちの 老後・死後)

仕事に没頭してきたけど、定年退職したら地域にレズビアンである私の居場所はないのが不安／パートナーが自分に介護が必要になったとき、子どものいない老後は心配



みなさんへのメッセージ

レズビアン的人生モデルがまだまだ少ないので、「きっとこうなるだろうな」とか「こうすればいいんだ」というのが描きにくいのが現実。将来に対して時に不安にはなりますが、たとえばコミュニティに関わる

などして、ひとりではなく、一緒に考えたり、学んだりしながら、取り組んでいくのも1つです。迷うときには、レズビアン向けの勉強会や相談支援が役に立つかもしれませんね。

# パートナーシップ・法的制度 | Partnership/Legal relationship

たとえば、最愛の女性と出会い、お付き合いをし、一緒に暮らし、共に人生を歩んでいこうと決めたとしても、日本ではふたりのパートナーシップを守るしくみがありません。今、私たちができること、未来に向けて目指すことは何でしょう？

## CASE

**付** き合って5年、同居4年。当然別々に生きていた者どうしだから、価値観も生活スタイルも違って、ケンカもたくさんした。でも1つ1つ乗り越えてきて、彼女のことをかけがえのない存在だと思ふようになった。異性愛者だったらケッコンしたいという感覚と同じように。

でも4年を経ても、私たちは社会からしてみれば「他人」でした。たとえば、病気がちな彼女が仕事をやめて家事を分担してくれても、私の扶養に入れるわけでもないし、社会保険の家族扱いにもできない。外国みたいに同性婚とかパートナーシップの制度があったら問題ないのに。周りには、「結婚式」をする友だちもいるけど、私たちは、結婚という選択肢が今はない日本でどう生きていきたいか、たくさん話し合うことにした。(20代と30代のLカップル)

## (同性カップルの認知、守るためにできること)

親戚にカミングアウトすることで、パートナーが家族として受け入れられるように頑張っている／遺言や公正証書、任意後見人制度を準備しているけど、それだけでお互いを守るのか心配

男女だと得られている権利が、女女のカップルだとないことを伝えたい

## (パートナーシップ法や同性婚、子どもをもてる制度が欲しい)

同性パートナーとの関係や権利を保障されたい(相続・年金・扶養控除なども)／結婚のような契約を交わせるようになればと思う／レズビアンカップルでも子どもをもてるような制度(里親、養子など)が欲しい

## (ひとりのレズビアンが 生きやすい社会に)

レズビアンもそうだけど、シングル女性のための保障が充実することを願う



みなさんへのメッセージ

レズビアンたちの人生の節目は、ヘテロセクシュアル(異性愛者)に比べて、ちょっと分かりにくいものかもしれません。ひとまず若いうちは恋人とルームシェアとか、一緒に住むことは可能だから何とかできるでしょう。でもふたりで楽しく過ごすうち、どこかで見ないようにしてきたことも顔をだしてきます。40歳などの節目に、ふと将来のことを考えてはみるもの、どこから手をつけていいかわからなくて、考えるのを止めたくなくなります。でも一方で、海外のニュースを見ていると、日本でも同性婚やパートナー間の

権利や保障があったらいいのに、誰かつくってくれないかなあとも思うでしょう。

日本は以前から、欧米に比べて10年、20年遅れだと言われていますから、歩みは遅くても可能性はあるはず。でも、そこまでは相当社会の意識が変わる必要があるの、そのために私たちがすることは何か、考えていかなければなりませんよね。真剣に欲すれば、願いはかなうでしょう。誰かがしてくれたらではなく、社会を変えていくのは、私たち1人1人だと思えます。諦めずに、前向きに考えて行動していきましょう。

## コミュニティ | Lesbian community

レズビアンたちが集うコミュニティ。そこに行けば誰かと会える、そんなリアルなコミュニティをもっと変えていけるといいなあ、という声がいっぱい。変えるのは私たち1人1人です。

### どんな地域にもコミュニティセンターができる

- レズビアンが利用しやすい、でもいろいろなしフレンドリーな人も参加できる
- フォークダンス、趣味のサークル、シルバー人材センターなどもある

### セクシュアルマイノリティどうし、いくつになっても助けあう

- レズビアンどうしの互助会、老後に孤立しなくてすむコミュニティの充実
- 活動を次世代へ受け継いでいく

### しフレンドリーな理解者、専門職とのつながり

- レズビアンに理解ある専門職者を育てよう

### お互いが専門性をもとに教えあう

- 例：介護職の人が介護教室をする

## 私たちのニーズ | Our various needs

レズビアンやセクシュアルマイノリティの女性と言っても、十人十色。でも、みんなの希望には共通項も見られるんです。たとえばこんな夢、一緒に実現したいですね。

### オープンリーなレズビアン、セクシュアルマイノリティ女性が増える

- みんながカミングアウトし、カミングアウトしようとする人を応援する
- 大規模なパレードやイベントがもっとたくさん開催される

### 目に見える存在になって、レズビアン向けサービスも始まる

**ファッション** → ユニセクスの服がたくさん売られるようになる

**出合い** → 同性どうしの結婚相談所みたいなものができる

**商品** → セクシュアルマイノリティ向け保険・介護サービスなどができる

**文化** → TV・映画・マンガ・本などカルチャーにもっとレズビアンが登場!



### みなさんへのメッセージ

この冊子にちりばめられた声やケースは、あなたと同じ、普通に生きているレズビアンやセクシュアルマイノリティの女性たちから届きました。どれか1つでもあなたの記憶に残れば、嬉しいです。そして、どれか1つが、あなたのライフステージのいちモデルや応援団になれたら、これ以上の喜びはありません。

少し先に生まれ、一足先にレズビアン街道を歩んでいる者たちとして、先を照らしたり(時には反面教師だったり)、世代や世界をつないでいけたら、と思います。

調査に協力してくれたみなさま、いつもcoLLaboのプログラムに参加してくれるみなさまへ。みなさんの声をもとにこの冊子を作ることができました。ご協力ありがとうございました。1人の声は小さくとも、声を集めて大きな声にして、必要なものをこれからもつくっていきましょう。目に見えるようになれば、社会はきっと変わります。そして、不安なときは、仲間の支えを利用してください。coLLaboでは、各種プログラムや勉強会、相談などを行っています。ぜひ活用してみてください。

## おわりに

私たちレズビアンやセクシュアルマイノリティの女性たちは、大変見えにくいですが、見えただけで、みなさんの周りにもセクシュアルマイノリティは必ずいます。家族、友人、近所の人、生徒、患者、消費者、同僚として、毎日必ず接していることでしょう。そのことを意識していただけたら、という思いからこの小冊子を作りました。少しでも多くの方の目にとまったら嬉しいです。職場の方、ご友人などにも紹介していただけたら幸いです。

セクシュアルマイノリティについて、改めて正しく知ったという方から、「相手を傷つけるのは不安だし、どう接していけばいいかわからない」という心配を打ち明けられることがあります。見えないものへの理解というのは戸惑いますよね。初めは、興味をもつことから始めていただければ良いと思います。心を寄せていく中で、少しずつ見えるものが増えてくるはずですよ。

coLLaboでは、当事者と社会への両方に向けて活動しています。垣根を越えた活動・事業を志していますので、関心をもたれた方には、もっと多くのことを知るお手伝いができると思います。団体・企業・専門職のみならずのコラボ(協働)も展開していきたいと思っています。この冊子を読んで、気づいた点がありましたら、ぜひお聞かせください。

coLLaboでは、当事者と社会への両方に向けて活動しています。垣根を越えた活動・事業を志していますので、関心をもたれた方には、もっと多くのことを知るお手伝いができると思います。団体・企業・専門職のみならずのコラボ(協働)も展開していきたいと思っています。この冊子を読んで、気づいた点がありましたら、ぜひお聞かせください。

### NPO法人レインボーコミュニティ coLLabo

誰が好きで、どこで誰と暮らすか、どのような生き方をするか、わたしたちの誰もが、セクシュアリティについて、安心して語れる社会であつたら、どんなにいいでしょう。

レインボーコミュニティ coLLaboは、レズビアンとセクシュアルマイノリティの女性(多様な女性)たちのための活動をするNPO法人です。

#### 事業紹介

##### ①当事者に向けた活動

相談・コンサルティング事業  
ピアサポート・相互生涯学習事業  
多様な女性のニーズに対応した社会資源開拓事業

##### ②社会に向けた活動

人権擁護の教育・啓発・情報発信事業  
調査・研究事業  
ネットワーク構築事業

#### プログラム紹介

- ① 電話相談  
「coLLabo LINE」
- ② 安心して語り合える  
「Real Voice」
- ③ つながって元気になれる  
「coLLabo LINK」
- ④ 未来をつくる  
「LLスタジオ」



詳しくは、公式サイトをご覧ください。

編集・発行：NPO法人レインボーコミュニティ coLLabo

〒158-0094 東京都世田谷区玉川1-3-25

TEL: 03-6322-5145 (Saturday 12:00~)

E-mail: info@co-llabo.jp

URL: http://www.co-llabo.jp/

デザイン： 加納啓善

この冊子は、「2013年度ボランティア・市民活動支援総合基金助成(ゆめ応援ファンド)」の助成を受けて作成しています。

2014年3月31日発行